

平成24年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」採択

## 国際海洋科学技術実践専門コースプログラム

### 【1. 実施大学の概要】

①実施大学	国立大学法人 東京海洋大学	学長名	岡本 信明
②実施研究科・専攻	海洋科学技術研究科応用生命科学専攻など1研究科9専攻	研究科長名	岡安 章夫
③所在地	〒108-8477 東京都港区港南4-5-7		
④問い合わせ先	担当部局・係	学務部 学生サービス課 留学生係（係長）	
	E-mail	g-ryuu@o.kaiyodai.ac.jp	
	電話番号・FAX	03-5463-0436	
⑤連携大学・研究科・専攻（ある場合のみ）			

### 【2. プログラムの概要】

①分野	自然科学分野	
②主な研究分野、進路	海洋学、水産学、環境学、海洋政策学、商船学、エネルギー学 母国の大学、国立研究所あるいは民間企業の研究職	
③プログラムの特色、優れた点など	本大学院特別コースは、すべて英語による授業により我国唯一の海洋に関する教育研究拠点として、「海洋科学技術」をキーワードに、グローバルな視点から時代や社会の変化に機動的に対応でき、総合的、学際的かつ先端的な教育研究指導を行う。特に、実践的研究を通して国際的に活躍できる高度専門職業人や研究者の養成を行い、もって、各国の大学、研究所及び水産海洋関係省庁などの行政機関において中心となって活躍できる人材の養成を行うプログラムである。	
④プログラムの形態	博士前期課程（2年間）及び博士後期課程（3年間）	
⑤受入れ学生予定数	博士前期課程 5人 外国人留学生数： 3人（うち優先配置： 3人） 日本人学生数： 2人 博士後期課程 15人 外国人留学生数： 12人（うち優先配置： 7人） 日本人学生数： 3人	
⑥入学時期	毎年10月	
⑦募集	対象地域・国など	主にアジア諸国を中心とする各国の協定校等を通じて
	告知方法	1. 主に協定校を通じて、2. 教員の海外出張時の訪問先で、 3. プログラムのホームページを通じて（近々に作成予定）
	開始時期	毎年10月頃から募集開始
⑧担当教員数	合計226人（うち専任：188人、兼任：11人、非常勤：27人）	
⑨プログラムのURL	近々に設置予定	
⑩プログラムマネージャー名	所属部局・職名：大学院海洋科学技術研究科研究院・教授	
	氏名： 廣野 育生	

### 【3. プログラムの具体的な内容】

#### **プログラムの目的**

海は地球表面の70%を占め、古来より人類の諸活動と密接に関わる機能・役割を果たしてきた。その第1は水産食糧供給の場としての機能であり、多くの国において、水産食糧資源は重要な動物性タンパク質源となっている。第2は国内外を結ぶ海上交通の場としての役割である。貿易立国で、かつエネルギー資源の殆どを外国に依存している我が国のみならず、海運は、産業、国民生活を支える基盤となっている。第3は人々が快適に生存するために必要なエネルギー資源と環境を調節・維持する機能である。このことは近年特に注目されており、その全容解明と保全技法の確立は急務とされている。さらに、海洋利用のグローバル化に伴って、公海生物並びにエネルギー資源の持続可能な開発や海上交通の秩序維持などが強調されるなど、国際協調が求められている。このように、海は常に人類の生存を保証し、その恒久的繁栄のためにも重要な場であり、これら関連分野に携わる教育・研究者、技術者の養成は必須である。

海洋科学あるいは海洋工学に関する研究は我が国が単独で行えるものではなく、国際的なパートナーシップにより、研究成果が得られ、目標達成へと進んで行くものである。このような国際的な共同研究を展開する上で、我が国がリーダーシップを発揮するためには、海外への技術や物資の援助のみではなく、知的国際貢献並びに共同研究や共同教育を積極的に行う必要がある。そのためには、アジア諸国を中心とした発展途上国から優秀な人材を選抜し、本コースに受入れ、教育指導するシステムである大学院特別コースが不可欠である。特に、水産並びに海洋に関する教育研究分野ではASEAN諸国が重要であると考え、本コースによる国費留学生枠はASEANを中心とした国々の優秀な学生の獲得を目的として活用する。さらに、海外からの優秀な留学生を選抜することは、現在、国際的に厳しい競争にもなっており、特に発展途上国の優秀な人材を受け入れるためには、それぞれの国の経済的な問題も踏まえると奨学金を支給することは不可避であると考えられる。また、優秀な留学生を受け入れることは、日本人学生に対して刺激となり、教育研究環境が活性化され、国際的な感覚を身に付けた日本人研究者並びに教育者を養成するためにも重要である。

本コースで求める人材像は国費、私費留学生ともに、本コース修了後には海洋科学技術の分野で国際的に活躍できる職に就くことを希望する学生で、その活躍の場はそれぞれの母国であり、日本であり、あるいはその他母国とは異なる国でもある。国際的に活躍出来る職として我々が考えているのは、大学、研究機関あるいは政府機関のみならず、国際的に展開しているグローバルな民間企業もある。このような国際的な環境にある職場において、日本で学んだ高度な技術、知識と自分の能力と融合させ活躍することを望んでいる学生を受け入れる。

#### **選考方法**

特別コース国費留学生枠の募集は、本学と大学間交流協定を締結している大学・研究機関を中心に募集し、専攻主任と研究科長による委員会で申請学生の学習成績、語学力、研究歴、研究業績、教育歴等をポイント化し独自の選考を行い、研究科教授会にて受け入れ者を決定する。本学は世界各地の85の大学や研究所と学術交流協定を結び、研究者の交流や留学生の受け入れ、国際セミナーの開催等に積極的に取り組んできている。特にこれらの多くの大学とは短期交換留学の協定を結んでおり、本学学部生・大学院生の派遣留学や、本学での留学生受入れを毎年実施している。これらの交流大学を拠点として、それぞれの国で優秀な学生の発掘を行っており、本学では優秀な学生を獲得するために大学の経費により教員を海外に派遣し、現地において留学希望学生と直接面談する機会を設けている。

前期後期あわせて国費留学生10名分の奨学金が保証されている他、本学が実施しているSATREPS地球規模枠では毎年留学生を推薦するとともに、他国政府等の奨学金（中国985工程、ベトナム322プロジェクト、ベトナムメコン1000プロジェクト等）を得て本学に入学を希望する学生の本コースへの優先的な受け入れを行う。

#### **カリキュラム・指導内容、指導体制、使用言語等**

教育研究環境の特色として、本学は水圏科学フィールド教育センター（4ステーション）や練習船6隻を利用し、教科書を利用した教育から実際にフィールドにおける実験・研究という実学まで幅広く行うことができる、国際的にも有数の教育環境を整えており、留学生に新たな技術や考え方を習得させるために、先端技術を中心とした実験実習を定期的に行い、即戦力で有能な人材を養成し、社会へ輩出できる教育に努める。

本コースは海洋科学技術研究科に属する全ての専攻(前期課程7専攻、後期課程2専攻)により構成されている。本プログラムの前期課程では修了に必要な講義の単位数として18単位を課し、そのうち8単位は別の専攻の単位を修了要件として認め、専攻横断的な教育を実施する。必要な単位数のうち、インターネット講義としてすでに実施している海洋科学技術特別講義IとIIを必修単位とし、関連分野以外の講義も受講し、海洋に関する幅広い知識の習得を目指す。研究室間インターンシップも必修とし、インターンシップを実施した学生は決められた時期に、インターンシップで学んだことを英語により公開発表する。さらに、前期課程では副専攻制度を実施しているが、この制度を本コースにも取り入れ、英語の授業のみによる副専攻取得を可能にし、国際的に活躍出来る海洋科学技術の知識を習得した人材輩出に努める。

本プログラムの後期課程では修了に必要な単位数として10単位を課し、専攻分野毎に2単位の合同セミナーおよび4単位の特別研究を開講している。なお特論は2科目4単位が必須であり、各専攻内の研究を横断的に学べるようにコースを設定している。合同セミナーでは特別研究の進捗発表のみならず国内外の著名研究者による講演やキャリアパス開発プログラムの一環として「スキルアップセミナー」を年5回(両キャンパス合わせて計10回)実施している。さらに、中間発表としての合同セミナーでは学生の発表スライドは日本人も含め英語で作成し、発表後には学生間相互評価システムとして、下記の学生による評価シートをセミナー終了後に発表者に渡し、学位論文作成に役立てられている。

Please check and comment to each Presentation for improving his/her research activities

No.	Presenter's name				
1) Background/Objectives		{ Excellent,	Good,	Fair,	Poor }
2) Methods		{ Excellent,	Good,	Fair,	Poor }
3) Results		{ Excellent,	Good,	Fair,	Poor }
4) Discussion & Conclusion		{ Excellent,	Good,	Fair,	Poor }
5) Future plan		{ Excellent,	Good,	Fair,	Poor }
6) Slide self-explanatory		{ Excellent,	Good,	Fair,	Poor }
7) Presentation Skill		{ Excellent,	Good,	Fair,	Poor }

Question/Comment:(for the student, this is the requirement for identifying your participation)

また、日本での生活に支障をきたさないように、以下の特別な配慮を留学生に対して実施しており、引き続き本コースの留学生に対しても実施する。①日本語教育：本学国際文化論講座教員による留学生を対象とした中級日本語クラスを開講している。これは、日本語が話せ、国際的に活躍出来る留学生を育ててほしいという我が国の民間企業からのニーズにも合致するものである。また、特別コースの学生に対する初級日本語クラスも開講し、本プログラムでの学習や研究に支障を来さない範囲で、全く日本語が出来ない留学生にもある程度日本でコミュニケーションが取れるようにと考えて開講している。②チューター制度：留学生がより早く日本の生活に慣れ、大学院における学習と研究に集中できるようにチューター制度を設置している。本制度は、留学生の学内外における諸手続きの手助けを行うとともに、日本語でコミュニケーションを取れるように日本語の指導を行っている。また、本制度は日本人学生の国際感覚の向上にも貢献している。③留学生の宿舎：本学では国際交流会館と学生寮に留学生が入居できるように規則を定めている。特に、国際交流会館には国費外国人留学生が優先的に入居できる制度がある。④委員会の設置：本学教職員で構成される留学生委員会を設置している。本委員会は、留学生が安心して日本での留学生生活を過ごせるように、種々の問題を検討するとともに、留学生からの相談に対応する委員会である。⑤学生サービス課留学生係では、学内事務手続き以外にも留学生の生活等のサポートや帰国後のフォローアップを行っている。また、昨年度は新たに留学生のための生活ハンドブック(英文/和文)を作成し、留学生に配布している。

本コースでもう一つ目指すものは、本コースを中心として国際的に活躍出来る日本人学生の輩出である。本学は、今後、学部学生の卒業や大学院への進級要件に一定レベルの英語力を取り入れる方向で検討を進めており、さらに、大学院教育は全ての授業を英語で実施出来るように、来年度から毎年20%程度の講義を英語で実施するように変更していく方針である。本コースにおいては、最初から全ての授業を英語で実施することで、日本人学生には「使える英語」を習得させることが出来るとともに、本コースに所属する外国人留学生と英語で討論することにより英会話力の向上が期待出来、将来的には国際的に活躍出来る人材を輩出することを目指す。5年後には、本学の大学院の全ての授業は英語化されていることになるため、今後5年間で、本コースの発展型として、海外の大学とのダブルディグリーやサンドイッチプログラムの拡充も視野に入れて発展型海洋科学技術実践特別コースを構築する。

また、本学は「海洋関連人材キャリアパス開発プログラム」に採択され、博士後期課程の学生及び博士研究員に対して3カ月間の長期インターンシップをスタートさせた。日本人のみならず、留学生に対しても広く門戸を開き、海洋関連の企業等で活躍できる人材を養成することを目的としている。

さらに、留学生同窓会ネットワークによる学内情報の提供や学内予算による元留学生の本学への招聘と本学での講演を行うことにより、修了後も継続したフォローアップを実施するとともに新たなネットワークの構築を図る。

## 東京海洋大学大学院国際海洋科学技術実践専門コース

**海洋科学技術研究科（博士前期課程7専攻、博士後期課程2専攻）全専攻**  
我が国唯一の海洋に関する教育研究拠点

